

【個人消費：八戸地区】

《 新型コロナウイルス 》

八戸地区における、新型コロナウイルス感染者は、2月に入り1定点医療機関当たりの感染者数が14人台に上昇したが、以降減少し、3月末の段階では医療機関当たり3.50人だった。

＜ 新型コロナ感染者数（2024年3月）＞

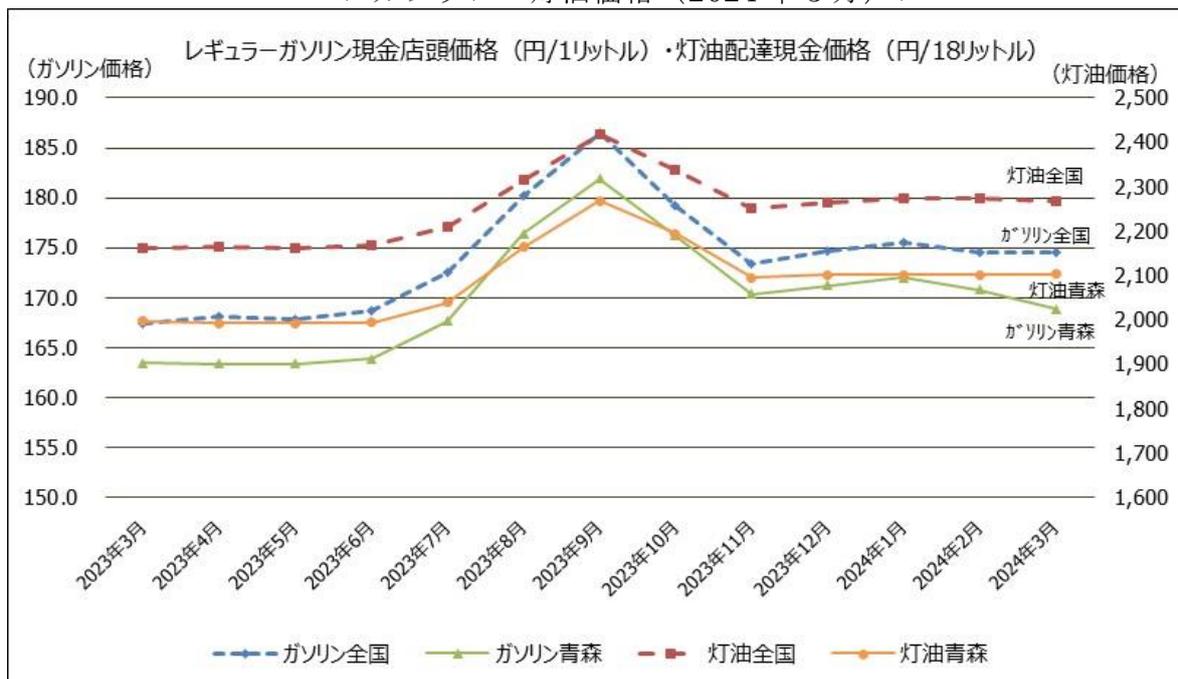


資料出所：青森県保健福祉部健康衛生課

《 ガソリン価格・灯油価格・物価 》

ガソリン価格・灯油価格のいずれも、全国を下回っているが、1年前と比べると高い水準にとどまっている。

＜ ガソリン・灯油価格（2024年3月）＞



資料出所：エネルギー経済研究所 石油情報センター

《 婦人服 》

気温の低かった月の前半と気温が上がった月の後半で売上について店舗によって結果は分かれた。いずれも、気温と取り扱う商品（冬物春物と夏物）とがマッチしたかどうかによって売上に差が出た模様。また、月の後半、客足が落ちた店舗も見られたが、旅行などで外出の機会が増えた、或いは年度末で仕事が忙しかったということが原因と考えられる。3月に入り夏物を扱い始めた店舗では、「まだ夏物は早いから」ということで動きがなかった店舗もあった。全般的に、ボトムズは今一つだったが、スプリングコート、羽織物、シャツ類、靴、スニーカーなどがよく売れた。

《 紳士服 》

3月は全般的に厳しく、特にスーツ類のパターンオーダーが伸びなかった。一方で、ジャケット、パンツ、ドレスシャツなどは底堅く売れた。例年3月は、新規のお客が多いが、この3月は新規のお客は少なく固定客メインだった。スーツのオーダー店は、売上は非常に好調。ペア割（男女問わず二着オーダーでの割引）の動きが非常に良かった。オーダーについては、新生活に伴う新規顧客の他、衣替えによるものもあった。ネットでの申し込みも相変わらず多かった。

《 靴 》

3月前半は伸び悩んだが、月を通してぎりぎり前年同月をクリアした。中でも靴べらを使わなくても履ける靴の売れ行きが非常に良かった。テレビコマーシャルの影響が大きく、メンズだけでなくレディス、さらには子供用の商品もよく出て、結果的に品薄になるぐらいだった。その他、3月後半は春休みの終盤ということで、子どもの上履きもよく出た。

《 大型家電量販店 》

全体的に売上は良かった。商品の値段が上がっていることと、付加価値の高い商品の販促に注力してきたことの結果として、客単価が上がったことによるもの。洗濯機は、商品の値段が上がり「どうせ買うなら良い商品を」ということでドラム式の洗濯機が出ている。エアコンは、昨夏の猛暑の影響からずっと売上の好調が続いている。例年動きが止まる冬期も売れ続け、3月に入っても、好調が継続している。パソコンは、大学生の新入学に伴うパソコンの購入のほか、高校生向けのタブレット端末が売れたが、これは岩手県推奨の商品が岩手県北で品薄になり、需要があったことによる。

《 家具 》

売上・客数共に、前年をやや下回った。その中であって、家具は、食卓テーブル、電動ソファなどが売れた。日用品は、テレビ番組で紹介された洗濯、清掃、キッチン用品などの商品が売れた。学習用品はほぼ前年並みで、学習机、システムベッド、二段ベッドなどが出た。また、3月は寒暖差があり、こたつ布団や寝具も月の前半売れた。他社もそうだが、値下げを始めている商品もある。

《 時計・宝飾品 》

通常の店頭品にはない目新しさを求め、展示会・イベントなど、普段見ることのできない商品に相変わらず関心が高い。ジュエリーは、ピアス、ファッションリングなど低単価は動きがよい。パール製品は温暖化などで養殖に影響が出ており、品薄で価格が上昇気味。腕時計はメンテナンス、修理関係は相変わらず多忙ながら、販売の動きは今一つ。金は円安に加えて、中東情勢への懸念から高値を更新し続けており、使わなくなったジュエリーなどの貴金属の買取は活況。

《 市内大型小売店（4店） 》

八戸市内大型小売店（4店）は、3月も前半気温が低く、中旬以降気温が上昇し、対応に苦慮したアパレルをはじめとして苦戦が続いた。家電で一部売上の回復が見られるが、個人消費全体でみると消極的な消費態度が続いている。3月は、前年同月比7.2%減と7ヶ月続けて減少となり、減少幅も拡大した。一方、一昨年のオミクロン株の感染拡大の影響があったことから、前々年同月比は7.0%増と3ヶ月続いて増加となった。

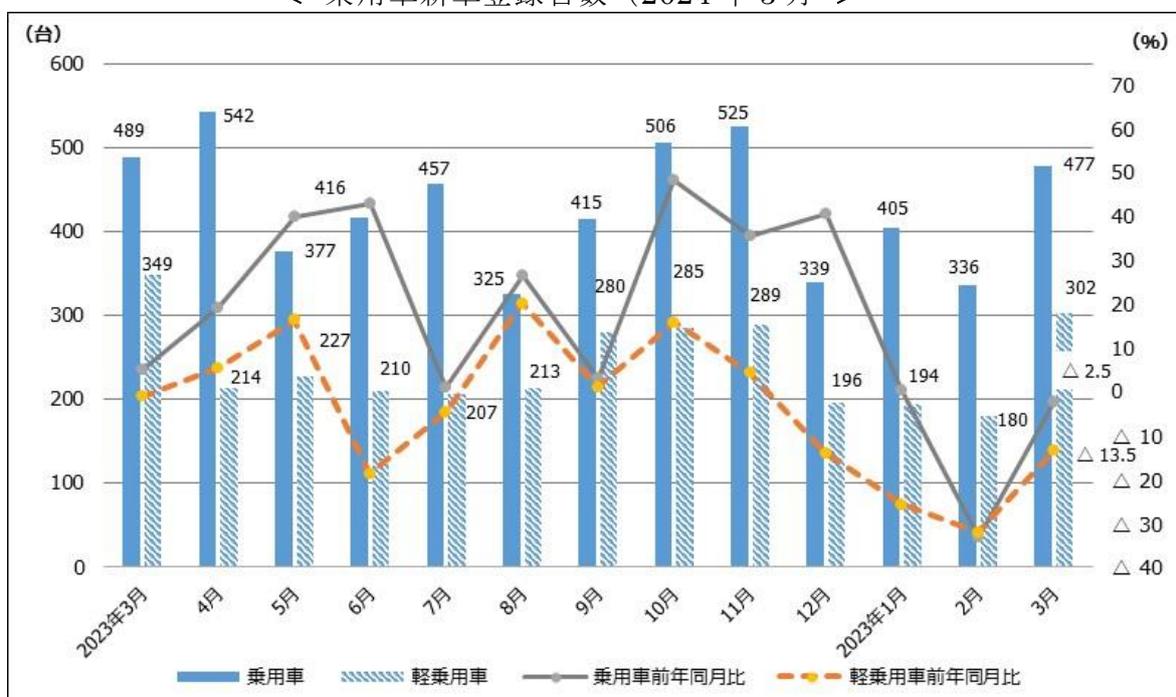
< 大型小売店売上高 (2024年3月) >



《 新車登録台数 》

普通乗用車の新車登録台数は、普通乗用車が前年同月比 308 台 9.2%増と 3 カ月ぶりに前年同月比増となり、小型乗用車は前年同月比 169 台で 18.4%減だったが前月より下げ幅が減少したものの、普通乗用車と小型乗用車を合わせた乗用車全体では前年同月比 2.5%減の 477 台と 2 ヶ月続けて前年同月比減となった。軽自動車は 302 台と、前年同月比 13.5%減となり、4 カ月連続して前年同月比減だったが下げ幅は縮小した。

< 乗用車新車登録台数 (2024年3月) >



乗用車 477 台 前年同月比 2.5%減 (普通乗用車 308 台 9.2%増、小型乗用車 169 台 18.4%減)
 軽乗用車 302 台 前年同月比 13.5%減

【個人消費：青森地区】

◎青森地区は、3月は前半気温の低い日が多かったため、個人消費全般に客足が伸びなかった。卒業・入学・就職シーズンを迎え個人消費全般に好調な動きを期待した月だったが、衣料品・食料品の販売が伸び悩んだ。その中において、「エアコン」は売上好調を継続、シューズに触れずに脱ぎ履きできる靴として売り出している「スケッチャーズ」「スパットシューズ」は売上大幅アップとなった。

《 婦人服 》

気温が低い日が続く薄手の春夏物・半そでは苦戦。後半は春物ワイドパンツ・ハイゲージニット・オールインワン・ワンピース・サロペット等が好調。また、ショルダーバック・ハンドバック・小物アクセサリ・プチプラアイテムの需要も好反応を見せていた。

《 紳士服 》

入卒園時期で一般フォーマル・新年度就職用・進学用のフレッシュアズスーツの売上増を期待したが前年比割れ。衣替え・新生活シーズンにより、ジャケット・スラックスの売れ行きは好調。フォーマルアイテム（Yシャツ・ネクタイ・ベルト・ビジネスシューズ等）も好調に推移。

《 靴 》

「スケッチャーズ」は、テレビコマーシャルの影響により売上大幅アップとなり、メーカーが在庫不足となった。「スパットシューズ」も月間最高売上を記録。メンズ・レディース共にフォーマル系の革靴が好調。子供用の春物ベビー・キッズスニーカーは落ち着きをみせた月間だった。

《 家具 》

来店客数は前年並みだったが、テレビコマーシャル効果もあり、新生活用品（インテリア・キッチン・バス・ランドリー・収納ケース・家具・家電等）は全館好調に売上を伸ばした。前年同月の売上が好調だった為、前年比割れとなったが、今年度3月の目標はクリアした。

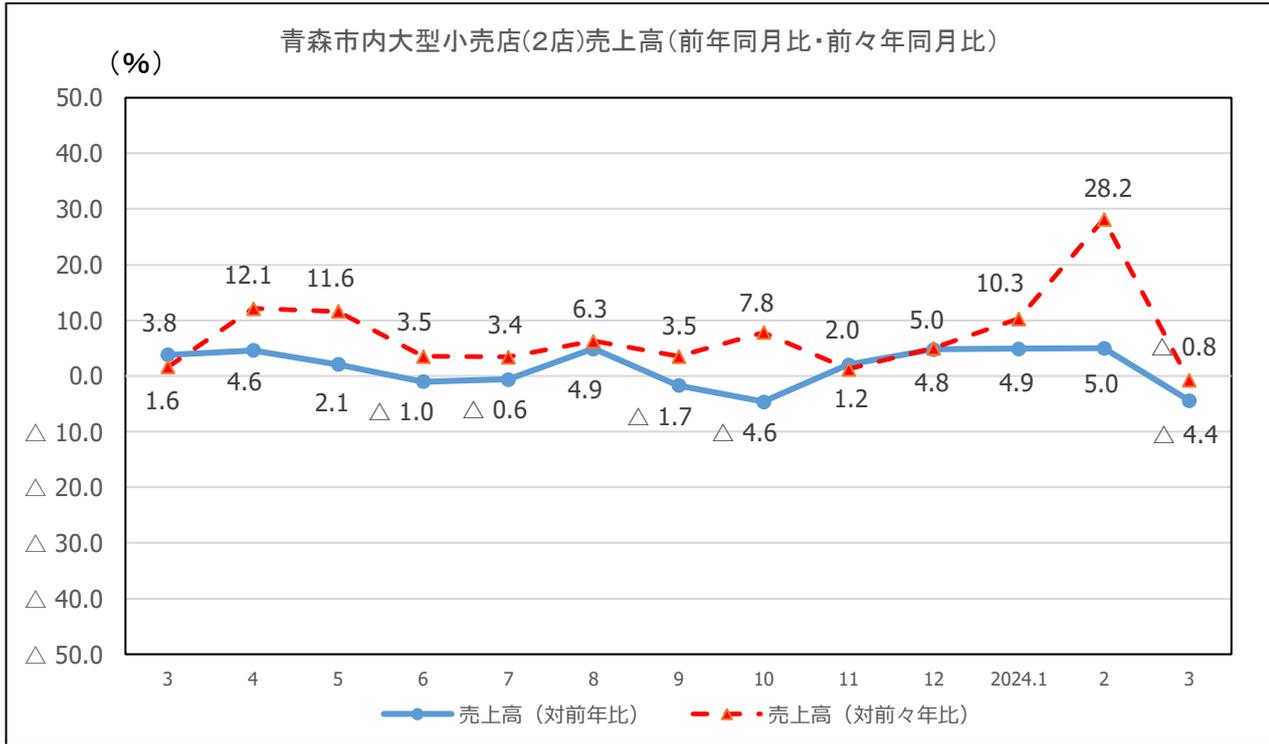
《 家電 》

冷蔵庫・洗濯機・電子レンジは新生活家電として年末・初売りより商戦をかけてきたため、3月は台数・金額共に前年比割れとなった。エアコンの売上は8月から前年を大きく上回り継続推移しており設置工事待ち状態が続いている。スマホは進学・就職に向けた新規・買替需要により販売台数・金額共大きく伸びている。静かなブームの到来かと思われる「一眼レフカメラ」が、例年になく台数・金額共に売上を大きく伸ばした。

《 大型小売店（2店） 》

大型小売店の来店客数は、3月前半天候の悪い日が続く前年を下回った。2店舗合計の売上は11月以降順調に回復傾向にあったものの、物価高の影響か衣料品・食料品等において買い控えが見られ、前年同月比4.4%減と5ヶ月振りに減少となった。また、前々年同月比においても0.8%減となり、13ヶ月振りに減少に転じ思わぬ苦戦月となった。

< 大型小売店売上高（2024年3月） >



< 新型コロナウイルス感染者数（2024年3月） >

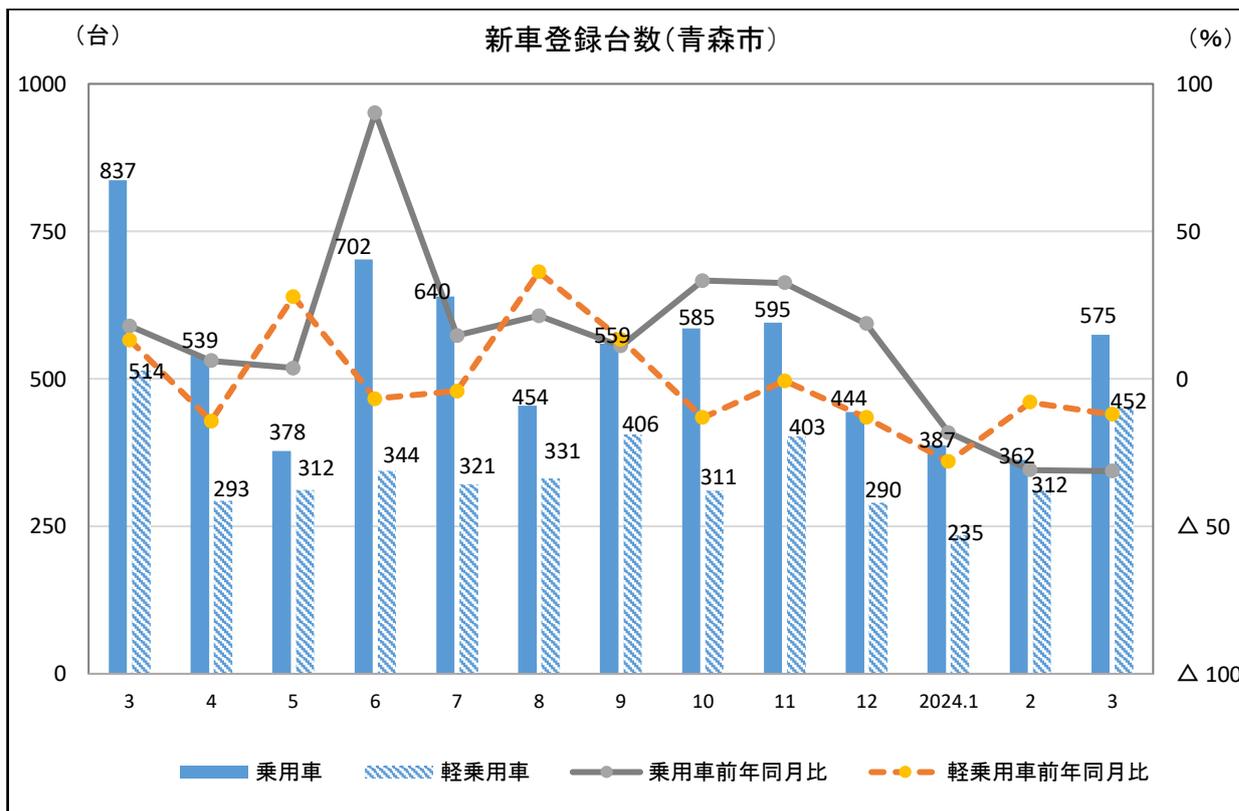


資料出所 : 青森県保健福祉部健康衛生課

《 新車登録台数 》

- ・普通乗用車が前年同月比 21.4%減、小型乗用車は前年同月比 43.0%減となり普通乗用車・小型乗用車共に 3 ヶ月連続の減少となった。普通乗用車と小型乗用車を合わせた乗用車合計も、前年同月比 31.3%減となり 3 ヶ月連続の減少となった。
- ・軽乗用車は、前年同月比 12.1%減となり、6 ヶ月連続で前年実績を下回った。

＜乗用車新車登録台数（2024年3月）＞



乗用車 575 台、前年同月比 31.3%減少。(普通車 21.4%減少、小型車 43.0%減少)
 軽乗用車 452 台、前年同月比 12.1%減少。